

別記様式

令和6年度学校評価報告書（全日制）

令和7年（2025年）3月25日

北海道教育委員会教育長 様

北海道函館中部高等学校長 清水 信彦

平成20年10月29日付け教高第925号で通知のありましたこのことについて、次のとおり報告します。

1 本年度の重点目標

- (1)道南地域の拠点校として、地域のニーズに応えられる学校づくりの推進
- (2)学校課題の共有と課題解決に向けた協働体制の確立
- (3)社会に開かれた教育課程の編成・実施と函中コンピテンシーの育成

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
1 学習指導	<ul style="list-style-type: none"><li>・函中コンピテンシーの育成を図る授業の充実を目指している。</li><li>・ICTを活用した授業改善を一層進める必要がある。</li></ul>	評価は概ね妥当である。 授業内での探究的な学びや、ICT活用による学びの充実を一層図ってほしい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"><li>・函中コンピテンシーの育成が図られる探究的な学びの授業改善および教科横断的授業の実践に、全教員共通認識のもと取り組むように努める。</li></ul>	
2 生徒指導	<ul style="list-style-type: none"><li>・学校行事が制限なく実施できることにより、生徒の有用感や達成感を感じられる機会が増え、人間関係形成力や社会性の育成が図られた。</li><li>・今年度も教室に入ることのできない生徒がいるため、人間関係づくりや教育相談を一層充実させる必要がある。</li></ul>	評価は概ね妥当である。 不登校やSNSトラブルなど現代的な教育課題に対し、学校だけで抱え込まずに、外部機関と連携・協力しながら対応してほしい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"><li>・教育相談を充実させるとともに、行事、学校生活の場面や個人面談等で積極的に生徒との関わりを持ち、問題の早期発見、支援する体制を整える。</li><li>・生徒の社会性や人間関係形成力が一層図られる、学校行事の工夫改善に努める。</li></ul>	
3 進路指導	<ul style="list-style-type: none"><li>・職員間での進路に関する情報や課題等を定期的に共有し、共通認識の下指導することができた。</li><li>・受験を中心とした進路指導のみならず、生き方を考えさせるキャリア教育の一層の充実が必要である。</li></ul>	評価は概ね妥当である。 進路実現のための指導は、保護者や生徒の期待に十分応えているといえる。今後は、多様化する大学入学者選抜方法の対応をさらに進めてほしい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"><li>・教職員間での連携を密にし、効果的な取組を共通認識を持った上で行うことができるよう組織的進路指導体制を整備する。</li><li>・キャリア教育の充実のため、インターンシップや大学等の訪問等の体験的な学びの場の機会の一層の充実を図る。</li></ul>	
4 健康安全指導	<ul style="list-style-type: none"><li>・新型コロナウイルス感染症への対応は落ち着いてきたものの、他の感染症や熱中症対策など、適切に対応できた。</li></ul>	評価は概ね妥当である。 支援委員会による個別対応は大変であると思うが、必要な生徒支援を継続的に進

	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様化する不登校の生徒への支援についての一層の個別支援が必要である。</li> </ul>	めてほしい
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な健康安全に関する課題を、生徒自身が個々に解決し健康で安全に生活していくことのできる自己指導力の育成を一層図る。</li> <li>様々な課題を抱える生徒の状況把握に努め、保護者・関係機関と連携して学校生活を支援する体制を整理する。</li> </ul>	
5 組織運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題検討委員会を通じて数々の学校課題が解決されたが、完全に解決できていない課題もあるため、引き続き検討していく。</li> </ul>	<p>評価は概ね妥当である。</p> <p>組織運営に関する自己評価は2点台と低評価であるものの、解決に向けて教員同士で話し合うなどの取組は高く評価できる。</p>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題検討委員会による課題の集約、検討などを継続的に進めていく。</li> <li>学校行事や業務の精選をより一層図り、時間外勤務時間の縮減に向けた具体的な取組を推進し、働き方改革を一層進める。</li> </ul>	
6 研 修	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業改善や教科横断的授業についての研修を実施した。</li> <li>教科横断的授業や単元配列表の改善を目的とした研修も実施した。</li> </ul>	<p>評価は妥当である。</p> <p>理数科は、倍率が1.2倍程度ないと、効果的な理数教育の実践が難しいと考えるため、特に理系女子の発掘に尽力してほしい。</p>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>探究的な学びを踏まえた授業改善および教科横断的な授業の実施に関する研修を実施し、SSHの取組とともに一層充実させる。</li> </ul>	
7 保護者・地域住民との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>P T A活動について、今年度も多くの保護者に協力いただいた。</li> <li>地域と連携をより大切にしつつ、学校行事（避難訓練など）の実施に向けた検討をしていく。</li> </ul>	<p>評価は妥当である。</p> <p>教育環境の良い雰囲気や教育活動の魅力を地域の中학생や保護者、中学校教員をはじめ、P T A・同窓会などへ積極的にアピールすることが今後も望まれ、教育無償化時代においても「選ばれる学校づくり」を目指してほしい。</p>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域との連携を踏まえた取組などを活性化させ、地域から信頼ある学校づくりにより一層取り組む。</li> </ul>	
公表の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校ウェブページ上での公開。</li> <li>P T A総会及び保護者懇談会等での説明。</li> </ul>	